

2010年度(2011年3月期) 第2四半期決算説明会



2010年10月29日
大正製薬株式会社
常務取締役 酒井 明人

2010年度第2四半期決算：概要



第2四半期(累計): 損益の概要

(億円)

	2009年度 2Q	2010年度 2Q	前年同期比増減	
売上高	1,298	1,330	+33	+3%
セルフメディケーション事業	816	854	+38	+5%
医薬事業	481	476	▲5	▲1%
営業利益	182	246	+64	+35%
経常利益	189	268	+80	+42%
四半期純利益	104	162	+59	+57%

注: 金額は億円未満四捨五入

2010年度第2四半期の概況(1)



- ・ **セルフメディケーション事業(国内)**
 - 主カブランドの健闘で期初計画を上回る
 - ・ リアップシリーズ:引き続きリアップX5が伸長
 - ・ リポビタンシリーズは売場対策強化に加え、夏の天候がプラスに
 - ・ パブロンシリーズ:総合感冒薬が堅調

＜ご参考:市場の状況＞

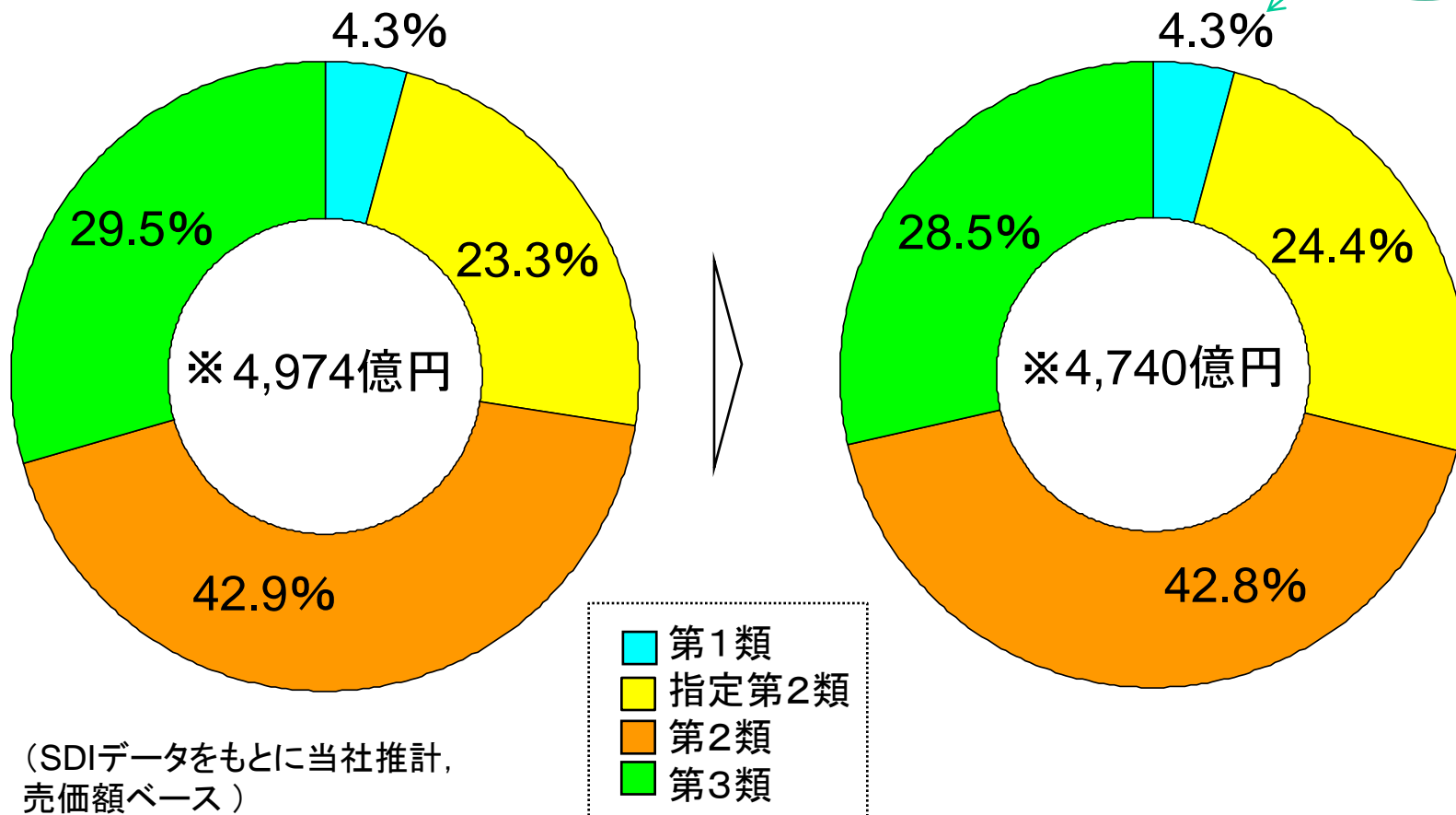
- OTC医薬品市場:上期は前年同期比6%減
薬効群ではドリンク剤、総合感冒薬、鎮咳去痰剤、毛髪用剤がプラス

OTC医薬品分類別構成比



国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2009年度4～9月) (2010年度4～9月)

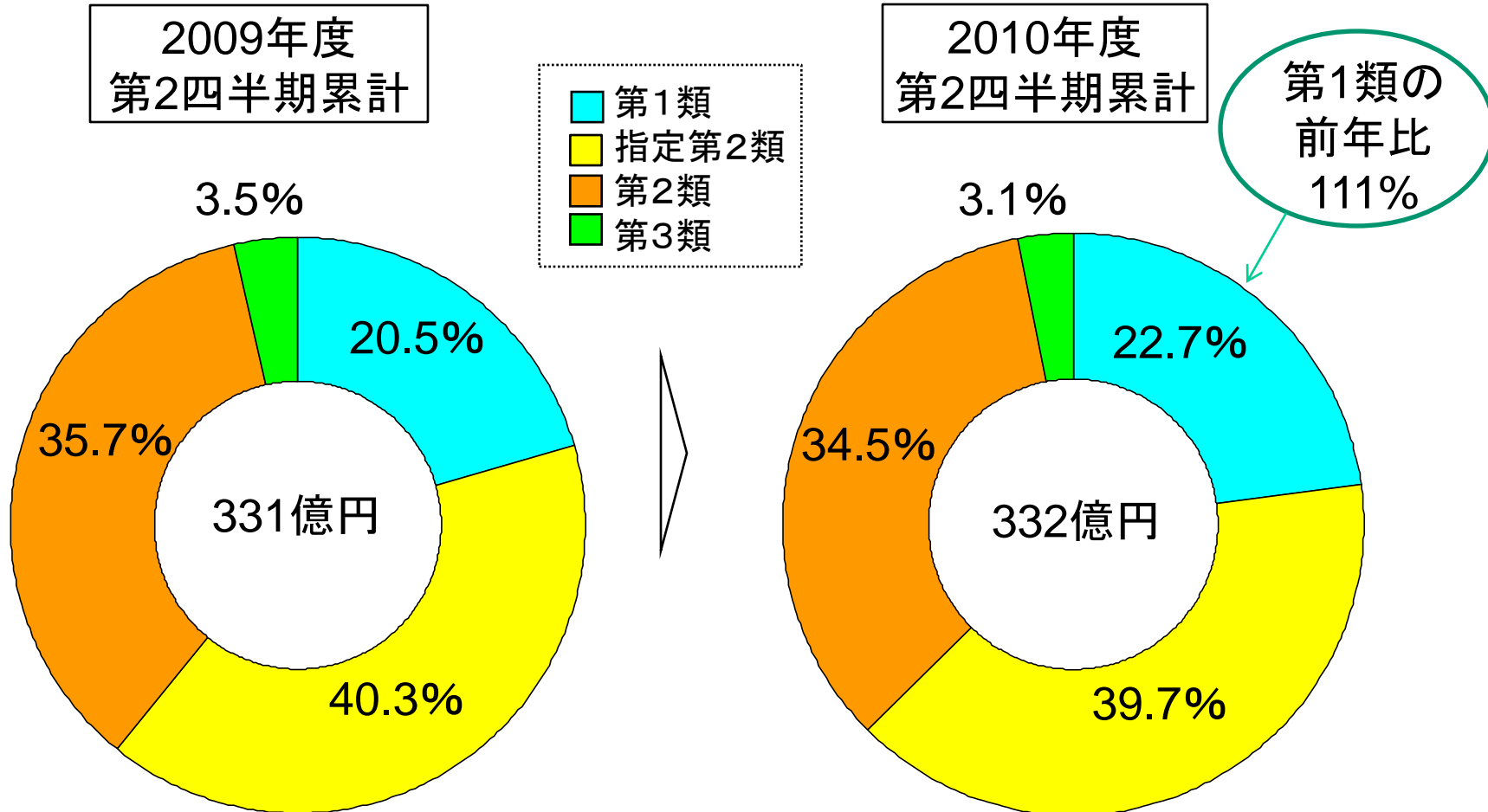
第1類の
前年比
96%



当社のOTC医薬品分類別売上構成比



- 第1類医薬品の売上構成比はリアップX5の寄与で引き続き上昇
(20.5%→22.7%)



アジアOTC事業について



- ・ 大正製薬インドネシア(旧BMSI)とシンガポールのアジアOTC事業統括会社は計画通りの進捗
(売上高22億円、営業利益12億円)
- ・ 通期計画は変更なし
 - 売上高43億円、営業利益20億円
のれん等償却20億円で
営業利益ベースは収支トントン

2010年度第2四半期の概況(2)



・ 医薬事業

- 大正富山医薬品はゾシン、オゼックスの増収が寄与、クラリスは数量ベースで増加、薬価改定の影響を吸収し、期初計画を上回った
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェアは15.8%、着実に存在感を高めている

(*J01抗菌薬市場)

<ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比0.1%増
 - ・ 当社の主力市場である抗菌薬市場は3.9%減
(経口2.5%減、注射5.6%減)

Copyright 2010 IMS ジャパン株式会社
JPM 2009年4月～2010年9月
無断転載禁止

2010年度2Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの6ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+33億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+38億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +6億円 アジアOTC +22億円 リビタシリーズ +3億円 海外ドリンク剤 +5億円</p>	<p>医薬事業 (▲5億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +4億円 中間製品等 ▲8億円 ロイヤルティ収入 ▲1億円</p>
<p>営業利益 (+64億円)</p>	<p>売上総利益*:+14億円 (売上総利益率* 前年同期65.1%→当期64.6%) 販管費:50億円の減少 内訳 研究開発費 ▲44億円 販促費 ▲8億円 広告宣伝費 ▲12億円 減価償却費 +6億円 のれん償却 +3億円</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損失は7億円減少(前年同期19.20億円→当期12.55億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

通期見通しについて



- ・ **セルフメディケーション事業**

- 通期売上予想は期初計画を据え置き

- ・ 主力ブランドは順調に推移、第2四半期までの状況を反映して引き上げる
- ・ 新製品の売上寄与は来期にずれ込む見通し

- ・ **医薬事業**

- 好調な推移を反映し、期初計画を上方修正

- ・ ゾシン、オゼックス、クラリスを中心に計画を引き上げる

2010年度：通期業績予想



(億円)

	修正 予想	前期比増減		対従来 予想比	従来 予想
売上高	2,655	+71	+3%	+35	2,620
セルフメディケーション事業	1,672	+83	+5%	0	1,672
医薬事業	983	▲13	▲1%	+35	948
営業利益	390	+43	+12%	+30	360
経常利益	430	+63	+17%	+25	405
当期純利益	260	+65	+33%	+15	245
EPS(円)	92.6	+24.6	+36%	+5.4	87.2
(参考)					
大正富山医薬品売上高	870	+6	+1%	+35	835

注：金額は億円未満四捨五入
従来予想は5月14日発表の予想

2010年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+71億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+83億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +35億円 アジアOTC +35億円 リビタシリーズ +4億円 海外ドリンク剤 +5億円</p>	<p>医薬事業 (▲13億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +6億円 中間製品等 ▲17億円 ロイヤルティ収入 ▲2億円</p>
<p>営業利益 (+43億円)</p>	<p>売上総利益*:+41億円 (売上総利益率* 前年同期64.5%→当期64.3%) 販管費:2億円の減少 内訳 研究開発費 ▲26億円 販促費 ▲1億円 広告宣伝費 ▲6億円 人件費 +3億円 減価償却費 +6億円 のれん償却 +5億円</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損失は18億円減少(前年同期39億円→当期21億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2010年度 2Q*実績	対前年 増減額	通期 修正予	対前年 増減額	対従来 予想比	通期 従来予
リポビタンシリーズ	408	+9	722	+14	+4	718
パブロンシリーズ	100	▲6	255	+6	+5	250
リアップシリーズ	74	+10	147	+20	+12	135
リビタシリーズ	17	+3	35	+4	0	35
クラリス	96	▲5	233	0	+13	220
パルクス	51	▲4	100	▲8	0	100
ゾシン	71	+20	143	+36	+23	120
ジェニナック	23	▲4	50	+2	0	50
オゼックス	17	+5	37	+9	+7	30

*期初からの6ヶ月累計

予=予想

通期従来予=セルフメディケーション事業のブランド売上高は5月14日発表の予想、

医薬事業の製品売上高は7月30日発表の予想

注:金額は億円未満四捨五入

セルフメディケーション事業：新製品



<2010年度：主な新製品>

<第1四半期>

デリトリーナ

<第2四半期>

ヴィックスMドロップ

シュガーレスグレープフルーツ

ドウファイバー粉末スティック

<グアーガム>

<下期>

ゼナFO-1α

シガノンCQ(透明タイプ)

皮膚用薬

など

赤文字: 発売済みの製品

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



パイプラインの変更点はなし

国内

(2010年10月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
承認(2010年6月18日)			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗菌薬 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
申請中			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD ₃ 誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬

*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2010年10月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2/3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



国内(続き)

(2010年10月29日現在)

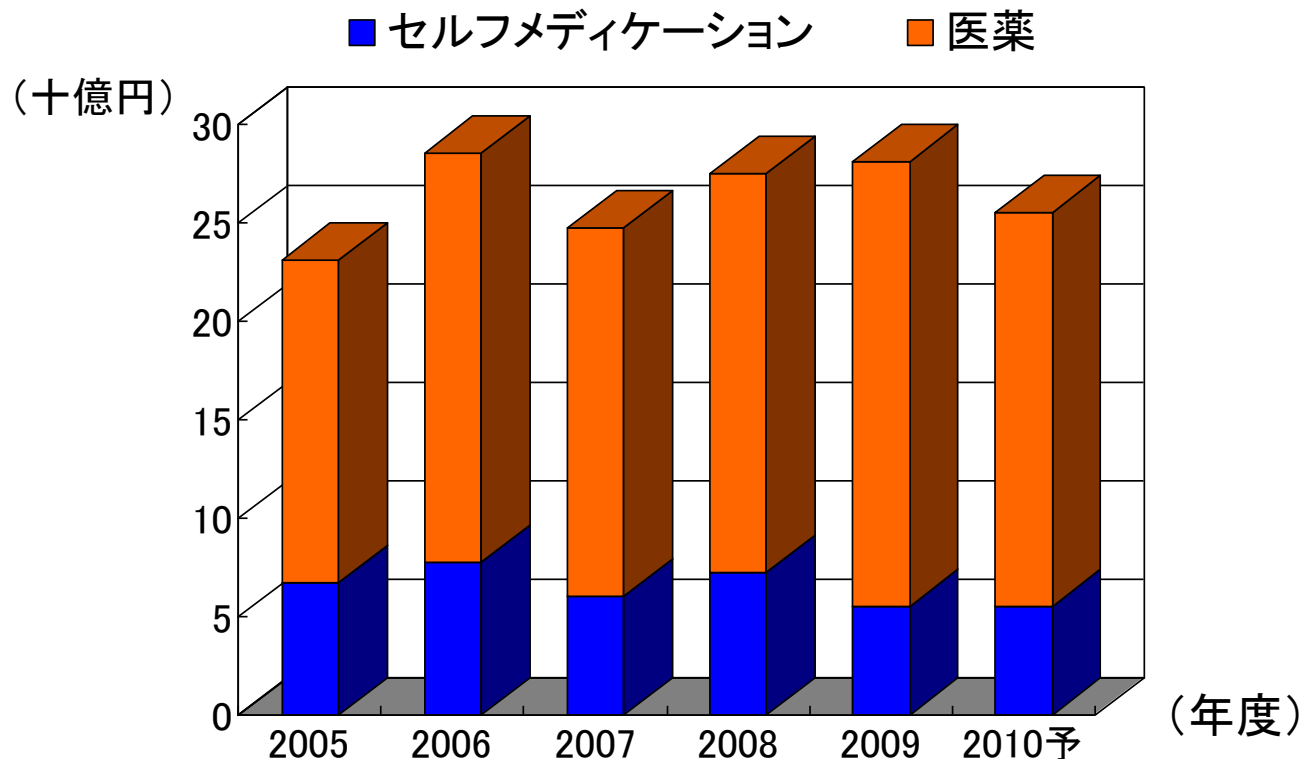
	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
TS-071 (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

研究開発費の動向



第2四半期累計実績：100億円

通期計画は医療用医薬品の開発状況を踏まえ、
221億円から255億円に引き上げ



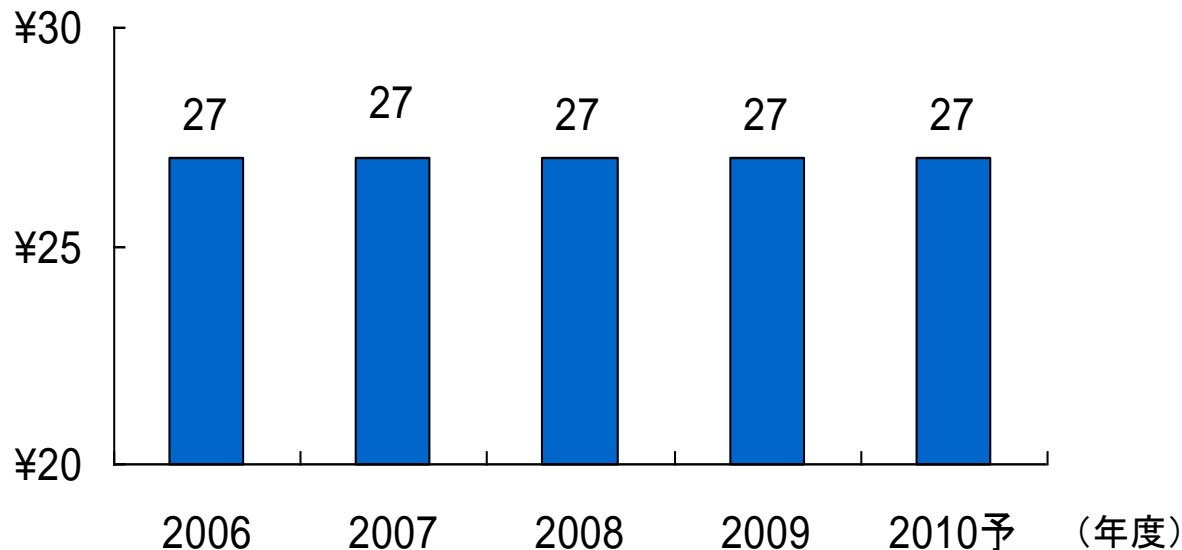
株主還元



- ・ 自己株式取得の決議：本日発表
 - 取得株数、金額：500万株、100億円（上限）
 - 取得期間：2010年11月1日～2011年1月31日まで

- ・ 配当

- 年27円/株を予定



1株あたり配当金の推移